

第70回

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ

ゲーテの会



「新しい文明」の萌芽を探る

日本と世界の歴史の転換点で、転載機を動かした「先覚者」の事跡をたどる

思想・文学

「もののあはれ」こそ日本人の心性。 「漢意」に異を唱える「本居宣長」

【講師】

田中 康二 皇學館大学文学部教授

1965年大阪市生まれ。神戸大学文学部卒業。同大学院文化科学研究科文化構造専攻退学。博士(文学)。富士フェニックス短期大学専任講師・助教授、神戸大学文学部助教授、同大学院人文学研究科教授を経て、2018年皇學館大学文学部教授。2001年第27回日本古典文学会賞(財団法人日本古典文学会)受賞。

著書に、『村田春海の研究』『江戸派の研究』(以上、汲古書院)、『本居宣長の思考法』『本居宣長の大東亜戦争』『本居宣長の国文学』(以上、ペリカン社、宣長論三部作)、『国学史再考一のぞきからくり本居宣長』(新典社選書)、『本居宣長—文学と思想の巨人』『真淵と宣長—「松坂の一夜」の史実と真実』(以上、中央公論新社、宣長伝三部作)など。

【講演要旨】

本居宣長とは何者か。日本古典文学の研究を大成した先達であると同時に、実証的に日本の優位性を主張した初めての日本人でもある。前者は国文学者の顔であり、後者は思想家の顔である。宣長は二つの顔を持つヤヌス(双面神)であった。それゆえ、どちらか一方だけを見ると、その実像をとらえ損なってしまう。評論家はそれに「宣長問題」というレッテルを貼って神棚に上げてしまった。

そこで、本講演では宣長の書いた文章に即して、国文学者としてのプロフィールを「もののあはれを知る」説を通じてとらえ、思想家としてのプロフィールを「漢意」を通して考えてみたい。いずれも宣長学を考える上で必要欠くべからざるキーワードであるにもかかわらず、かならずしも正しい理解が行きわたっているわけではない。グローバル(国際化)が合言葉である21世紀こそ、宣長の提唱した「もののあはれを知る」説を正しく理解、運用し、排他的ではない「漢意」排斥の精神を習得する必要があるということを確認したい。

【参考図書】

ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。
田中康二『本居宣長—文学と思想の巨人』(中公新書、2014年)

どなたでも
ご参加いただけます。
ぜひ、お誘いあわせの上
ご参加ください。

日時

2019年4月19日(金) 18:00~20:30

会場

国際高等研究所コミュニティホール

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

参加費

2,000円

定員

40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申し込み

ホームページからお申し込み下さい
<https://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切

2019年4月18日(木)

けいはんな「ゲーテの会」とは…

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。
研究所の庭園にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は国際高等研究所で、人類の未来と幸福、そしてけいはんな学研都市について考えてみませんか。

お問い合わせ

ゲーテの会事務局

Tel: 0774-73-4000 e-mail: goethe0828@iias.or.jp

主催: 公益財団法人国際高等研究所

 公益財団法人
国際高等研究所